

令和7(2025)年度

第2学年

年間学習指導計画書



滋賀県立大津商業高等学校

本書の使い方について

年間学習指導計画書とは

本計画書は、「授業で学習することがら」、「年間の授業の流れ」、「学習の観点」、「考査計画」や「評価方法」などを記載したものです。生徒の皆さんに、1年間の授業内容を見通して、各科目の学習計画を把握してもらうために作成しました。見慣れないもので理解しにくいかもしれませんが、しっかり読んで下さい。

「何を目的として授業をしているのか」、「何をもちて評価するのか」、「皆さんに何を期待しているのか」といった内容が書かれています。

本書によって皆さんが事前に学習計画を作り、学校での授業や家庭での学習が少しでも充実したものになってほしいと考えています。

本書の見方

学年	単位数				
	情報システム科 ※2		総合ビジネス科		
科目名 ※1	開発	利用	I類	II類	III類
				※3	
学習の目標					
使用教材	教科書： 副教材：				
評価	評価法	※4			
	評価観点の趣旨	①	知識・技能		
		②	思考・判断・表現		
		③	主体的に学習に取り組む態度		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
		※5				

※1 皆さんが受ける授業の科目名を明記しています。

※2 2年生・3年生では、総合ビジネス科、情報システム科の小学科の中でさらに類型やコースに分かれて授業が行われます。自分の類型やコースに注意して下さい。（詳しくは「教育課程表」や「目次」を見て下さい。）

※3 その科目の授業が週に何時間あるかを書いています。「2」とあれば週に2時間で、修得できる単位数が「2単位」ということです。

※4 授業での評価のしかたや観点が示されています。意欲的に学習する態度を養って下さい。

※5 一年間の授業の流れが示され、「何を身につけてほしいか」が示されています。計画的に学習し、必要な知識などを手に入れる力を養って下さい。また、評価についても書いてあります。考査の成績の他にも大切なことがあります。その科目を学習するにあたって、さまざまなアドバイスが書かれていることもありますので、しっかり読んで参考にして下さい。

もくじ

教科	科目	単位数	ページ	学科・類型				
				情報システム科		総合ビジネス科		
				開発	利用	I類	II類	III類
国語	論理国語	2	3~5	○	○	○	○	○
	文学国語	2	6~7	○	○	○	○	○
地歴	歴史総合	2	8~9	○	○	○	○	○
数学	数学A	2	10~11	○	○	○	○	○
理科	生物基礎	2	12	○	○	○	○	○
保体	体育	2	13~15	○	○	○	○	○
	保健	1	16~17	○	○	○	○	○
外国語	英語コミュニケーションⅡ	3	18~21	○	○	○	○	
	英語コミュニケーションⅡ（Ⅲ類）	5	22~25					○
家庭	家庭基礎	2	26~27	○	○	○	○	○
商業	課題研究	1	28	○	○	○	○	○
	マーケティング（Ⅰ類）	4	29~30			○		
	財務会計Ⅰ（情報システム科）	3	31~33	○	○			
	財務会計Ⅰ（Ⅰ類）	4	34~35			○		
	財務会計Ⅰ（Ⅱ類・Ⅲ類）	4	36~37				○	○
	原価計算（Ⅱ類・Ⅲ類）	4	38~40				○	○
	ソフトウェア活用（システム利用）	4	41~42		○			
	ソフトウェア活用（Ⅰ類・Ⅱ類）	2	43~44			○	○	
	プログラミング（システム開発）	4	45~47	○				
	ネットワーク活用（システム利用）	3	48~49		○			
ネットワーク管理（システム開発）	3	50~51	○					

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	論理国語	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
使用教材	教科書：『精選論理国語』（東京書籍） 副教材：プレミアムカラー国語便覧（数研出版） 新常用漢字必携パーフェクトクリア（尚文出版） テーマ別論理国語（尚文出版） 語彙力と読解力をつける現代文単語（数研出版）					
評価	評価法	定期考査、課題考査、小テスト、ノート、ワークシート、レポート・作文、グループ討議・発表、振り返りシート等により、総合的に評価				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。		
		②	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり深めたりしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	1. 論理とは何か【論理の力】（読むこと） 2. 論理の力を鍛えよう【論理の力】（読むこと）	1. 本文に書かれている内容を理解し、本文中に示された【例】や【問】を通して「論理的」とはどういうことを学ぶ。 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。【知識・技能】 2. 本文に書かれている内容を理解し、論理的な文章の特徴や、論理的に考えることの意義を知る。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。【知識・技能】	小テスト 発表	ワークシート 発表	小テスト ワークシート 発表
	5	1. ミロのヴィーナス【発見への誘い】（読むこと） 2. 資料を整理し、テーマを吟味しよう（書くこと）	1. 具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。【思考・判断・表現】 2. テーマに沿って収集した資料の論点をまとめ、テーマが適切かどうかを検討する。 ・収集した資料を整理する観点と表にまとめる意義を理解し、集めた資料を整理する。【知識・技能】 ・各資料の論点を比較するポイントを捉え、自分の立場や意見、問題意識の明確化との関連性を理解し、整理した資料について自分の立場や意見、問題意識をまとめる。【思考・判断・表現】 ・テーマを検討する観点を理解し、テーマ設定と資料の収集・整理との関係を理解する。各自のまとめに対してグループ内で助言を行い、テーマの変更・修正をし、適切なテーマ設定をする。【主体的に学習に取り組む態度】	小テスト 発表	ワークシート 発表	小テスト ワークシート 発表

1 学期	6	1. 相手依存の自己規定【言語と認識】 (読むこと)	1. 具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。【思考・判断・表現】	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表
	7	1. 要約する力【論理の力】 (読むこと) 2. つなげる力【論理の力】 (読むこと)	1. 【幹】「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、【問】に取り組むことで理解を深める。また、長文を要約する手順とポイントについて学ぶ。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。【思考・判断・表現】【知識・技能】 2. さまざまな「接続関係」について理解を深め、「接続関係」が文章を論理的に理解するうえで重要であることを学ぶ。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。【知識・技能】	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表
2 学期	9	1. メディアの変容【人間を見つめる】 (読むこと) 2. 論証する力【論理の力】 (読むこと)	1. 挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。【思考・判断・表現】 2. 「論証」において根拠を示す重要性と論証の説得力について理解を深めるとともに、論証の適切さを判断する方法や反論する方法について学ぶ。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。【知識・技能】	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表
	10	1. 仮説を立てて検証しよう (書くこと)	1. 仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる方法を学ぶ。 ・課題について、問題の前提とそこにどのような傾向が見られるかについて、種々の媒体を利用して現象を把握する。【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループで課題の現象に基づく疑問点を出し合い、その原因や結果について仮説を立てる。【思考・判断・表現】 ・仮説を検証するの根拠となる情報を収集・整理・分析し、立てた仮説の妥当性を検証するとともに、これをもとに報告文にまとめる。【思考・判断・表現】	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表
	11	1. 「リスク」と「リスク社会」【学問のまなざし】 (読むこと)	1. 対比に注意して論の展開をつかみ、「リスク」という概念について理解を深める。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。【知識・技能】	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表
	12	1. 質問する力【論理の力】 (読むこと) 2. 消費されるスポーツ【社会を捉え直す】 (読むこと)	1. 質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。 ・質問力を鍛える重要性和効能を、「読む力・聞く力」「書く力・話す力」「議論する力」の三つのポイントとのつながりから理解する。【知識・技能】 ・「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」という三種類の質問を理解し、物事に対する姿勢や心がけとの関連性を捉える。【知識・技能】 2. 筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。【知識・技能】	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表

3 学 期	1	1. 図表を読み解くために【イメージを読む】 (読むこと) 2. 日本人の美意識【イメージを読む】 (読むこと)	1. 図や表に見られる描き手の意図や目的について話し合う。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。〔思考・判断・表現〕 2. 図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。〔思考・判断・表現〕	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表
	2	1. 地図の想像力【イメージを読む】 (読むこと)	1. 提示されている地図に注目して論の展開を押さえ、地図に対する筆者の考えを読み取る。 ・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連づけて自分の考えを広げたり深めたりする。〔思考・判断・表現〕	小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表
	3			小テスト 発表	ワーク シート 発表	小テスト ワーク シート 発表

担当者からのメッセージ（学習方法など）

本科目では、論理的な文章および実用的な文章の読解を通して、実社会に必要な国語の知識を身につけ、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高めていきます。新しい教材を学ぶ際には事前に語句の意味を調べるなどし、文章理解に向けての準備をしましょう。日々の授業や家庭学習においては、見通しをもって積極的に学習活動に取り組み、自ら考え、考えたことを他者に伝えるよう努めましょう。教科書教材と並行して小テストを実施しますので、自分で計画を立てて学習を進めましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	文学国語	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	文学的文章の読解を通じて、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を育む中で我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通じて社会に関わろうとする態度を養う。また生涯にわたる社会生活において必要な言語感覚を磨き、文学的文章の内容や表現を吟味することを通して、自らの言葉に対する感性を磨く。					
使用教材	教科書：文学国語(東京書籍) 副教材：改訂版プレミアムカラー国語便覧(数研出版)、力をつけるシリーズ文学読解Plus(数研出版)					
評価	評価法	定期考査、課題考査、小テスト、ノート、課題プリント、問題集、レポート・作文、グループ討議・発表等により、総合的に評価する。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	生涯にわたる社会生活において必要な国語の知識や技能を適切に用いるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めている。		
		②	思考・判断・表現	文学的文章や作品を読む・書く中でその内容や表現等の吟味・評価を行い、自身の新しい考えや発想を生み出す力を身につけている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて他者や社会とのかかわりについて理解を深め、言葉が持つ価値への認識を深めている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	雨月物語 【随筆に親しむ】 (読むこと)	『雨月物語』が筆者に与えた影響を読み取り、「物語」に対する筆者の考え方を理解するとともに、「物語」に対する自分の考えをまとめる。 ・筆者が『怪談』『雨月物語』を好んで読んだ理由を的確に読み取る。[思考・判断・表現] ・筆者の「物語」に対する考え方を読み取り、まとめる。[主体的に学習に取り組む態度] ・『怪談』『雨月物語』について知る。[知識・技能]	小テスト 課題 プリント ノート	小テスト 課題 プリント ノート	小テスト 課題 プリント ノート
	5	山月記 【小説を通じて自らを振り返る】 (読むこと)	登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 ・李徴がなぜ虎に姿を変えてしまったのかを李徴の心理や背景から読み取る。[知識・技能][思考・判断・表現] ・李朝の心情を表現に即して読み取り、その生き方について自らの言葉で表現する。[思考・判断・表現] ・「山月記」と「人虎伝」を読み比べ、共通点と相違点をまとめる。[主体的に学習に取り組む態度] ・作者の経歴や文学傾向を知る。[知識・技能]	中間考査	中間考査	中間考査
	6	言葉を生きる 【評論を読む】 (書くこと)	筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。[思考・判断・表現] ・「言葉」と「生きること」の関係について考えたことをまとめ、班で話し合う。[主体的に学習に取り組む態度]	小テスト 課題 プリント ノート	小テスト 課題 プリント ノート	小テスト 課題 プリント ノート
	7	書評を書く 【言語活動】 (書くこと)	本の表現や内容についての評価を客観的に分析し、書評を書く。 ・本文を読み、書評を書く際の進め方と留意点を理解する。[思考・判断・表現] ・作成した書評を班で読み合い、書評の構成や展開についての工夫の必要を振り返り、話し合う。[主体的に学習に取り組む態度]	発表 期末考査	発表 期末考査	発表 期末考査

2 学 期	9	山椒魚 【小説を通して自らを振り返る】 (読むこと)	登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・山椒魚の置かれた状況や心情、蛙の様子を本文から読み取る。[思考・判断・表現] ・話に込められた寓意について自身の生き方や考えに基づいて意見をまとめる。[主体的に学習に取り組む態度] ・作者の経歴や文学傾向を知る。[知識・技能]	小テスト 課題プリント	小テスト 課題プリント	小テスト 課題プリント
	10	こころ 【小説を通して人間を見つめる】 (読むこと)	人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・登場人物相互の関係性が、それぞれどのように描かれているのかを読み取る。[思考・判断・表現] ・主題をまとめるとともに、人の心のありようについて考えを深める。[主体的に学習に取り組む態度] ・作者の経歴や文学傾向を知る。[知識・技能]	ノート 発表	ノート 発表	ノート 発表
	11					
	12	硝子の駒 - 短歌抄 【詩歌に親しむ】 (読むこと、書くこと)	短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。[思考・判断・表現] ・印象に残った歌の一つを選びその理由を挙げ、歌の特徴に即して文章にまとめ、発表する。[主体的に学習に取り組む態度] ・作者の経歴や文学傾向を知る。[知識・技能] ・短歌を創作する。[主体的に学習に取り組む態度]	期末考査	期末考査	期末考査
3 学 期	1	永訣の朝 【詩歌に親しむ】 (読むこと)	特徴的なリズムや表現を味わいながら、その効果を理解するとともに、作品の背景にある作者の心情を読み取る。 ・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。[思考・判断・表現] ・作者の経歴や文学傾向を知る。[知識・技能] ・妹の置かれた状態を表す比喻などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめる。[思考・判断・表現]	小テスト 課題プリント	小テスト 課題プリント	小テスト 課題プリント
	2	文学のふるさと 【評論を読み解く】 (読むこと)	具体例と筆者の主張との関係に注意しながら評論を読み、文学のよりどころについての理解を深める。 ・「アモラル」の視点から、本文に取り上げられたそれぞれの作品に対する筆者の見解を読み取る。[思考・判断・表現] ・文学のモラルや社会性に注目しながら、「文学のふるさと」についての考えをまとめる。[主体的に学習に取り組む態度] ・作者の経歴や文学傾向を知る。[知識・技能]	ノート 発表	ノート 発表	ノート 発表
	3	鞆 【小説を読み解く】 (読むこと)	寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・「鞆」に対して抱く「私」の心情の変化を的確に読み取る。[思考・判断・表現] ・「鞆」が象徴するものを文脈に即して考えるとともに、本作品の主題についてまとめる。[主体的に学習に取り組む態度] ・主題についての見解をグループ内で相互評価し、自身の考えを深める。[主体的に学習に取り組む態度]	期末考査	期末考査	期末考査

担当者からのメッセージ（学習方法など）

本科目では、日本の文学的文章を通して、言語能力の向上と豊かな感性の育成を目指します。たとえ現代に書かれた文章であっても、語句や漢字を正しく理解しなければ内容を正しく読み取ることはできません。事前に語句を調べ、内容理解に向けた準備を行いましょ。日々の授業においては、予習と復習への積極的な取り組みに努めてください。また、小説読解のための問題集や文学史にも取り組みましょ。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	歴史総合	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
使用教材	教科書：私たちの歴史総合（清水書院） 副教材：問いからはじまる歴史総合（東京法令出版）					
評価	評価法	定期考査、小テスト、レポート課題、振り返りシート等により評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		
		②	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1編 歴史の扉 第1章 歴史と私たち 第2章 歴史の特質と資料 第2編 近代化と私たち 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	・身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを学ぶ。 ・歴史における資料の重要性と、事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方について学ぶ。 ・資料を活用し近代化に関する問いを表現する。	レポート・定期考査	レポート・定期考査	レポート・振り返りシート
	5	第2章 結びつく世界と日本 (1) 18世紀までの世界 (2) 工業化と世界市場の形成	・18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・工業化と世界市場の形成を理解する。			
	6	第3章 国民国家と明治維新 (1) 国民国家と立憲体制 (2) 帝国主義とアジア、アフリカの変容	・立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。			
	7	第4章 近代化と現代的な諸課題	・現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。			
2 学期	9	第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう 第2章 第一次世界大戦と大衆社会 (1) 第一次世界大戦と国際社会	・国際秩序の変化や大衆化に関する問いを表現する。 ・総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。	レポート・定期考査	レポート・定期考査	レポート・振り返りシート
	10	(2) 1920年代の世界と大衆の時代の到来	・大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。			
	11	第3章 経済危機と第二次世界大戦 (1) 国際協調の挫折と2度目の世界大戦 (2) 世界大戦がもたらしたもの	・国際協調体制の動揺や第二次世界大戦の勃発の背景に関する事柄を理解する。 ・第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。			

2 学期	12	第4章 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 第4編 グローバル化と私たち 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 ・グローバル化に関する問いを表現する。	レポート・定期考査	レポート・定期考査	レポート・振り返りシート
3 学期	1	第2章 冷戦と世界経済 (1) 冷戦と国際政治 (2) 世界経済の拡大と日本	・国際政治の変容を理解する。 ・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	レポート・定期考査	レポート・定期考査	レポート・振り返りシート
	2	第3章 世界秩序の変容と日本 (1) 市場経済の変容と冷戦の終結 (2) 冷戦終結後の世界	・市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。			
	3	第4章 現代的な諸課題の形成と展望	・歴史的経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解する。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「歴史総合」は皆さん自身が問いを立て、課題を探究する科目です。歴史的な事象をただ暗記するのではなく、「なぜ?」「どうして?」という目線で学ぶとともに、歴史を現代社会におけるさまざまな問題を解決する手掛かりにしてほしいと考えています。
時には決まった答えのない問題に対して取り組むこともあります。先生から与えられるのを待つのではなく、ぜひ積極的な姿勢で参加してください

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	数学A	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。					
使用教材	教科書：数学A Progress (実教出版) 副教材：新課程版 ラウンドノート数学I+A (実教出版)					
評価	評価法	①定期考査 ②小テスト ③単元中テスト ④課題プリント(レポート含む) ⑤問題集 ⑥学習への主体的な取り組み(授業時の取り組み, ノート, その他)により評価する。				
	評価観点の趣旨	① 知識・技能	場合の数と確率, 図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。			
		② 思考・判断・表現	不確実な事象に着目し, 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。また, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。			
		③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。また, 問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	・集合と要素	・共通部分, 和集合, 補集合, 集合の包含関係や要素の個数など, 集合に関する基本的な事項を理解する。 ・有限集合の和集合・補集合の要素の個数についての関係式を用いて, 集合の要素の個数を求める。	① ②	① ④	② ④ ⑤ ⑥
	5	・場合の数	・場合の数を樹形図などを利用して求める。 ・和の法則や積の法則について, 図表示などを利用しながら, 場合の数を求める。			
	中間考査					
	6	・順列	・順列 nPr , 階乗, 円順列, 重複順列の意味を理解し, 順列の考え方をういて様々な考え方ができるようになると共に, その総数を求める。 ・特定の並べ方(女子が両端・女子3人が隣り合う・男女交互に並ぶ等)について理解し, その総数を求める。			
		・組合せ	・組合せの意味を理解し, その総数 nCr を, 順列との関係によって求める。 ・順列と組合せの違いを理解し, その組合せの考え方をういて, その総数を求める。			
	期末考査					
7	・組分け ・同じものを含む順列	・組合せの考えを, 組分けや同じものを含む順列に応用する。組分けの問題においては, 組の区別がつく場合とつかない場合の違いを理解し, その総数を求める。	① ② ③	① ③ ④	② ④ ⑤ ⑥	
2 学期	9	・事象と確率				・確率についての基本的な概念, 定理, 用語・記号などを理解し, 事象の確率の求め方を理解するとともに, その確率を求める。 ・積事象・和事象, 排反事象, 確率の基本性質, 確率の加法定理, 和事象の確率, 余事象とその確率について理解し, これらを利用して確率を求める
	10	・独立な試行の確率				・独立な試行について, 具体例を通してその意味を理解し, その確率を求める。 ・独立な試行の典型的な例である反復試行の確率を求める。
	11	・反復試行の確率 ・条件付き確率				・条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解し, それらを用いて具体的な事象を数学的に考察する
		・期待値				・期待値について理解し, 期待値を求めたり, 期待値を意思決定に活用したりする。
	期末考査					

3 学 期	12	2章 図形の性質 ・三角形と線分の比	<ul style="list-style-type: none"> ・平行線と線分の比，三角形の内角の二等分線と比，外角の二等分線と比などについて理解し，それらを用いて線分の長さを求める。 ・三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について理解し，角の大きさを求める。また，外接円，内接円との関係を理解する。 ・チェバの定理，メネラウスの定理を理解し，それを活用していろいろな辺の長さや比を求める。 	① ②	① ② ④	② ④ ⑤ ⑥
	1	・三角形の外心・内心・重心 ・三角形の比の定理				
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・円の性質 ・方べきの定理 	<ul style="list-style-type: none"> ・円に内接する四角形の性質や，四角形が円に内接する条件について理解し，それらを用いることができる。 ・円の接線とその接点を通る弦がつくる角と円周角との関係を理解し，それを利用して角の大きさを求める。 ・円と2本の直線がつくる線分の長さの関係について考察し，方べきの定理が成り立つことを理解するとともに，それを利用して線分の長さを求める 			
	学年末考査					
3	・空間図形	・多面体の面の数，頂点の数，辺の数の関係について理解し，これらの数を求める。				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学Aは、去年の数学Iとは違い、複雑な計算や公式は少ないですが、「なぜこうなるか」「どのように考えたか」を表現する力や思考力が求められます。単に答えが求めればいいではなく、そういうことを意識して取り組んで下さい。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	生物基礎	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	日常生活との関連を図りながら、生物に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、生物学への関心を高める。また、身近な生物を用いた実験や観察を通して探究する能力とその態度を養う。					
使用教材	教科書：高等学校 新生物基礎（第一学習社）					
評価	評価法	定期考査・学習プリントおよび実験実習レポートと課題レポートの提出・グループワークの成果などにより評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	生物に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、実験・観察に必要な基本操作や記録方法などの技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察や実験を行い、得られた結果を分析して表現することができる。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象の理解に主体的に取り組み、見通しをもって学習や振り返りを行う態度を持っている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通してみられる特徴とは何か、また生物に共通性がみられるのはなぜかについて学習する。 ・エネルギーは代謝にどのように関わるか、ATPは体内でどのように働く物質か、酵素の性質と役割はどのようなものかについて学習する。 ・染色体・DNA・遺伝子はどのような関係があるか、DNAの構造にはどのような特徴がありどのような過程を経て複製・分配されるかについて学習する。 	定期考査	定期考査 ・ 学習プリント ・ グループワーク	実験・実習レポート ・ 学習プリント
	5	第2節 生物とエネルギー				
	6	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA				
2 学期	9	第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAのもつ遺伝情報からどのようにしてタンパク質が合成されるか、同じ遺伝情報をもつ細胞でも働きが異なるのはなぜかについて学習する。 ・自律神経系とホルモンは体内環境の調節にどのように関わるかについて学習する。 ・ヒトはどのようにして病原体から身を守っているか、免疫に関連した病気や医療にはどのようなものがあるかについて学習する。 	定期考査	定期考査 ・ 学習プリント ・ グループワーク	実験・実習レポート ・ 学習プリント
	10	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 からだの調節と情報の伝達				
	11	第2節 免疫				
3 学期	1	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・植物と環境はどのような影響を及ぼしあうか、植生を遷移させる要因は何か、地球上に様々な生物の集団がみられるのはなぜかについて学習する。 ・生態系では生物間にどのような関係がみられるか、生態系のバランスと人間生活が生態系に与える影響について学習する。 	定期考査	定期考査 ・ 学習プリント ・ グループワーク	課題レポート ・ グループワーク
	2	第2節 生態系とその保全				
	3					

担当者からのメッセージ（学習方法など）

生物基礎の内容は、私たちの生活やいろいろな仕事と密接にかかわっています。たとえば、生物の特徴を利用した商品や、さまざまな病気の診断や治療と健康の維持、私たちが暮らす地域や地球全体の環境保全など……。これらの学びを普段の生活や皆さんの将来に活かしていきましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	体育	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	<p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>					
使用教材	教科書：体育理論…現代高等保健体育（大修館書店）体育編					
評価	評価法	① 観察 ② スキルテスト ③ 学習カード ④ パフォーマンス課題 から評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1	4	オリエンテーション 体づくり運動	<オリエンテーション> ・体育授業を受けるうえでの決まりを確認し、体育授業をスムーズに受けるための約束事を確認する。 <体づくり運動> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や仲間とともに体力の向上を図る。 ・新体力テストを通し、自分の体力を理解する。	① ③	③	①

1 学 期	5 6	<p>体育理論①</p> <p>種目選択オリエンテーション</p> <p>選択 I</p>	<p><01 スポーツにおける技能と体力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能と体力の関係について学ぶ。 ・技能や体力を高めるときに気をつけるべき点を学ぶ。 <p>自己の能力、適性、興味・関心に応じて運動種目の選択をおこなう。</p> <p>【選択 I】 バスケットボール、バレー、ターゲットバードゴルフ、(卓球) より1 選択</p> <p><選択 I ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったり、自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。 ・球技に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じた課題やプレイを大切にしようとする、健康・安全を確保すること。 	3	3 4	1 3
	7	<p>体育理論②</p>	<p><02 スポーツにおける技術と戦術></p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能と型の違いやそれぞれの練習の仕方を学ぶ。 ・用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化について学ぶ。 	3	3 4	1 3
2 学 期	9 10 11	<p>体育理論③</p> <p>体づくり運動</p> <p>選択 II</p>	<p><03 技能の上達過程と練習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能がどのようなステップを経て上達するのかを学ぶ。 ・練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかを学ぶ。 <p><体づくり運動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や仲間とともに体力の向上を図る。 <p>【選択 II】 サッカー、バドミントン、テニス、(ハンドボール) から1 選択</p> <p><選択 II ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとする。 	3 4	3 3	1 3
	12	<p>体育理論④</p> <p>体育理論⑤</p>	<p><04 効果的な動きのメカニズム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを学ぶ。 ・良い動きを支える調整力について学ぶ。 <p><05 体力トレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を学ぶ。 ・筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法を学ぶ。 	3	3 4	1 3

3 学 期	1	体づくり運動	<p><体づくり運動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や仲間とともに体力の向上を図る。 	3	3	1
	2	選択Ⅲ	<p>【選択Ⅲ】陸上競技（長距離走）、ダンス（創作ダンス）より1選択</p> <p><陸上競技（長距離走）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、ペースの変化に対応して走る。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保する。 <p><ダンス（創作ダンス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方、課題解決の方法、体力の高め方などを理解する。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 ・ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康安全を確保する。 	2 3	3 4	1 4
	3	体育理論⑥	<p><06 運動やスポーツでの安全の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを学ぶ。 ・スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生原因と予防方法を学ぶ。 	3	3 4	1 3

担当者からのメッセージ（学習方法など）

体育は、実技がうまくできるかということに焦点をあてられがちですが、その点（技能）のみで評価をするわけではありません。知識や考える力、それを表現する力、主体的に学習に取り組む力なども評価の観点として総合的に評価をします。

生涯にわたってスポーツを実践する礎となるように、前向きに、積極的な態度で授業を楽しんでください。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	保健	開発	利用	I類	II類	III類
		1	1	1	1	1
学習の目標	(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他の社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。					
使用教材	教科書：現代高等保健体育（大修館書店） 副教材：図説現代高等保健（大修館書店）					
評価	評価法	①定期考査 ②パフォーマンス課題 ③ノート ④授業での取り組み から評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	【生涯を通じる健康】 01 ライフステージと健康	・ライフステージと健康の関連について学ぶ。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について学ぶ。	① ②	② ④	③ ④
		02 思春期と健康	・男女それぞれの思春期における体の変化を学ぶ。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について学ぶ。			
	5	03 性意識と性行動の選択	・性意識の男女差について学ぶ。 ・性情報が及ぼす性行動の選択への影響について学ぶ。			
		04 妊娠・出産と健康	・妊娠・出産の過程における健康課題について学ぶ。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて学ぶ。			
	6	05 避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と適切な避妊法について学ぶ。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について学ぶ。			
		06 結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について学ぶ。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。			
		07 中高年期と健康	・加齢に伴う心身の変化について学ぶ。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて学ぶ。			
	7	08 働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわりについて学ぶ。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。			

2 学期	9	09 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害の種類とその原因について学ぶ。 労働災害を防止するために必要なことを学ぶ。 職場がおこなう健康に関する取り組みについて学ぶ。 余暇を積極的にとることの意義について学ぶ。 	1 2	2 4	3 4
	10	【健康を支える環境づくり】 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染の原因と健康への影響について学ぶ。 大気にかかわる地球規模の健康問題について学ぶ。 水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を学ぶ。 大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて学ぶ。 			
	11	03 環境と健康にかかわる対策 04 ごみの処理と上下水道の整備 05 食品の安全性	<ul style="list-style-type: none"> 環境汚染による健康被害を防ぐ方法について学ぶ。 産業廃棄物の処理について学ぶ。 ごみの処理の現状やその課題について学ぶ。 上下水道のしくみと健康にかかわる課題を学ぶ。 食品の安全性と健康のかかわりについて学ぶ。 食品の安全性に関する今日的課題について学ぶ。 			
	12	06 食品衛生にかかわる活動	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について学ぶ。 食品の安全性を確保するための個人の役割について学ぶ。 			
3 学期	1	07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> 保健行政の役割について学ぶ。 保健サービスの活用について学ぶ。 我が国における医療保険のしくみについて学ぶ。 さまざまな医療保険の役割について学ぶ。 	1 2	2 4	3 4
	2	09 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品の正しい使用方法について学ぶ。 医薬品の安全性を守る取り組みについて学ぶ。 国際機関・民間機関などの保健活動について学ぶ。 行政機関による社会的対策について学ぶ。 			
	3	11 健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進のための環境づくりについて学ぶ。 環境づくりの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることに学ぶ。 			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

定期考査は各学期末に1回、年間計3回おこないます。

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	英語コミュニケーションⅡ	開発	利用	I類	Ⅱ類	Ⅲ類
		3	3	3	3	-
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ、「五つの領域」〔聞くこと・読むこと・話すこと（やり取り）・話すこと（発表）・書くこと〕別に設定する目標の実現を目指し、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付ける。また適切に表現したり、伝えあったりする力を一体的に養うとともに、その過程を通して主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：BIG DIPPER English Communication II（数研出版） 副教材：BIG DIPPER English Communication II ベーシックノート（数研出版）、VALUE 1400（数研出版） 英語演習ノートORANGE版（数研出版）、Joy Reader 2（数研出版）					
評価	評価法	定期考査、課題考査 単語テスト、パフォーマンス課題、授業用ノート、ワークブック、 ※上記のものを適宜課して、評価材料とする。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、これらの知識を、特に話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理性に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に、情報や自分の考え・気持ちなどを論理性に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとしたりする態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas? 海外のユニークな学校行事	1. 各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握する。 2. 本文の内容（パジャマデーのような海外のユニークな学校行事など）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（受動態【復習】／不定詞【復習】／助動詞+be+過去分詞【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・中間考査	中間考査	予習・復習（プリントなど）
	5	Lesson 2 Is Seeing Believing? 楽しい「だまし絵アート」	1. 歌川国芳やエッシャーのだまし絵、大阪豊中市のととりくみなどについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（関係代名詞の限定用法【復習】／関係代名詞の継続用法①/SVO (0 = wh-節)／現在完了【復習】／過去完了【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・中間考査	中間考査	予習・復習（プリントなど）

1 学期		中間考査		定期考査		
	5 6	Lesson 3 Do You Get Enough Sleep? よい睡眠をとるには	1. 睡眠の重要性や睡眠関連商品などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（仮定法過去【復習】／関係代名詞what【復習】／関係副詞when【復習】／関係副詞where【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・期末考査	期末考査	予習・復習（プリントなど）
	6	Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? 英語の多様性について	1. 英会話に関する2つの異なる考え方やELFなどについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（関係代名詞の継続用法②／関係副詞why【復習】／SV0102 (02 = that節)）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 6. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。	小テスト・期末考査	期末考査	予習・復習（プリントなど）
		期末考査		定期考査		
	7	Lesson 5 Universal Design: Convenient for All ユニバーサルデザインの役割と課題	1. ユニバーサルデザインの照明スイッチやピクトグラムなどについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（現在分詞の分詞構文【復習】／進行形の受動態〈be動詞+being+過去分詞〉／関係副詞whereの継続用法／形式目的語it）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・期末考査	期末考査	パフォーマンス課題予習・復習（プリントなど）

2 学 期		課題考査				
	9	Lesson 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer 81歳でゲームアプリをつくった若宮 正子さん	1. 若宮正子さんの活動などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（SVC（C=現在分詞/過去分詞）／受動態の分詞構文／〈助動詞＋have＋過去分詞〉／SVOC（C=過去分詞））を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・期 末考査	期末考 査	予習・ 復習 （プリ ントな ど）
	10	Lesson 7 Learning from Nature 自然界の生物をヒントにして開発さ れたもの	1. 生物をヒントにして開発された電化製品や飛行機などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（省略／動名詞の意味上の主語／未来進行形〈will be＋～ing〉／完了形の不定詞〈to have＋過去分詞〉）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・期 末考査	期末考 査	予習・ 復習 （プリ ントな ど）
	11	Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food 保存食の魅力と可能性	1. 乾物、缶詰、発酵食品などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（仮定法過去完了／〈as if＋S'＋仮定法過去〉／Without ～／命令文（レシピ）【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・期 末考査	期末考 査	予習・ 復習 （プリ ントな ど）
	12	期末考査		定期考 査		パ フォー マンス 課題

3 学 期	課題 課 査				
	Lesson 9 The Sharing Economy: Something for everyone? シェアリングエコノミーとは	1. シェアリングエコノミーについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（未来完了〈will have+過去分詞〉／無生物主語構文①〈enable+0(人)+to-不定詞〉／SVC(C = that節)／無生物主語構文②〈make+0(人)+原形不定詞〉)を理解する。 3. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 4. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・期末 未 考 査	学年末 考 査	予習・ 復習 (プリン トな ど)
	Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 知られざる世界の砂不足について	1. コンクリートの歴史や、世界の砂不足などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（関係副詞whenの継続用法／複合関係代名詞whatever／倒置）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。	小テスト・期 末 考 査	学年末 考 査	パ フォ ーマ ンス 課 題 予 習 ・ 復 習 (プリン トな ど)
	学年末 考 査		定期 考 査		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

日常のおよび社会的な話題について、英語で聞いたり・読んだりした内容の要点をつかむために、多様な確認問題に取り組みます。また、英文法についても多く取り扱います。
授業では英語で質問に答えたり、ペアワークをします。積極的に英語を使うようにして、コミュニケーション能力を一緒に高めていきましょう。

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	英語コミュニケーションⅡ（Ⅲ類）	開発	利用	I類	Ⅱ類	Ⅲ類
		-	-	-	-	5
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ、「五つの領域」〔聞くこと・読むこと・話すこと（やり取り）・話すこと（発表）・書くこと〕別に設定する目標の実現を目指し、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付ける。また適切に表現したり、伝えあったりする力を一体的に養うとともに、その過程を通して主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：BIG DIPPER English Communication II（数研出版） 副教材：BIG DIPPER English Communication II ベーシックノート（数研出版）、VALUE 1400（数研出版） 英語演習ノートORANGE版（数研出版）、Joy Reader 2（数研出版）、英語演習ノートGREEN版（数研出版）					
評価	評価法	定期考査、課題考査 単語テスト、パフォーマンス課題、授業用ノート、ワークブック、 ※上記のものを適宜課して、評価材料とする。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、これらの知識を、特に話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理性に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に、情報や自分の考え・気持ちなどを論理性に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとしたりする態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas? 海外のユニークな学校行事 [英語演習ノート]GREEN版 1 文の種類 2 基本5文型	1. 各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握する。 2. 本文の内容（パジャマデーのような海外のユニークな学校行事など）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（受動態【復習】／不定詞【復習】／〈助動詞+be+過去分詞〉【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・中間考査	中間考査	予習・復習（プリントなど）
	5	Lesson 2 Is Seeing Believing? 楽しい「だまし絵アート」 [英語演習ノート]GREEN版 3 時制 4 完了形 5 助動詞	1. 歌川国芳やエッシャーのだまし絵、大阪豊中市のとりにくみなどについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（関係代名詞の限定用法【復習】／関係代名詞の継続用法①/SVO（0 = wh-節）／現在完了【復習】／過去完了【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・中間考査	中間考査	予習・復習（プリントなど）

1 学期	中間考査		定期考査		
	Lesson 3 Do You Get Enough Sleep? よい睡眠をとるには	1. 睡眠の重要性や睡眠関連商品などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（仮定法過去【復習】／関係代名詞what【復習】／関係副詞when【復習】／関係副詞where【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	期末考査	予習・復習（プリントなど）
	5 6	[英語演習ノート]GREEN版 5 助動詞 6 受動態 7 不定詞 I			
	Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? 英語の多様性について	1. 英会話に関する2つの異なる考え方やELFなどについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（関係代名詞の継続用法②／関係副詞why【復習】／SV0102 (02 = that節)）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 6. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	期末考査	予習・復習（プリントなど）
6	[英語演習ノート]GREEN版 8 不定詞Ⅱ 9 不定詞Ⅲ 10 動名詞				
	期末考査		定期考査		
7	Lesson 5 Universal Design: Convenient for All ユニバーサルデザインの役割と課題	1. ユニバーサルデザインの照明スイッチやピクトグラムなどについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（現在分詞の分詞構文【復習】／進行形の受動態（be動詞+being+過去分詞）／関係副詞whereの継続用法／形式目的語it）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	期末考査	パフォーマンス課題予習・復習（プリントなど）
	[英語演習ノート]GREEN版 11 分詞 12 不定詞動名詞分詞				

2 学 期	課題考査					
	9	Lesson 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer 81歳でゲームアプリをつくった若宮 正子さん [英語演習ノート]GREEN版 1 3 比較 I 1 4 比較 II 1 5 関係代名詞 I	1. 若宮正子さんの活動などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（SVC（C=現在分詞/過去分詞）／受動態の分詞構文／〈助動詞+have+過去分詞〉／SVOC（C=過去分詞））を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	期末考査	予習・復習（プリントなど）
	10	Lesson 7 Learning from Nature 自然界の生物をヒントにして開発されたもの [英語演習ノート]GREEN版 1 6 関係代名詞 II 1 7 関係副詞 1 8 仮定法	1. 生物をヒントにして開発された電化製品や飛行機などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（省略／動名詞の意味上の主語／未来進行形〈will be+ing〉／完了形の不定詞〈to have+過去分詞〉）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	期末考査	予習・復習（プリントなど）
	11	Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food 保存食の魅 力と可能性 [英語演習ノート]GREEN版	1. 乾物、缶詰、発酵食品などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（仮定法過去完了／〈as if+S'+仮定法過去〉／Without ~／命令文（レシビ）【復習】）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	期末考査	予習・復習（プリントなど）
	12	期末考査		定期考査		パフォーマンス課題

3 学 期		課題考査				
	1	Lesson 9 The Sharing Economy: Something for everyone? シェアリングエコノミーとは	1. シェアリングエコノミーについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（未来完了〈will have+過去分詞〉／無生物主語構文①〈enable+0(人)+to-不定詞〉／SVC(C = that節)／無生物主語構文②〈make+0(人)+原形不定詞〉)を理解する。 3. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 4. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	学年末考査	予習・復習 (プリントなど)
	2	Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 知られざる世界の砂不足について	1. コンクリートの歴史や、世界の砂不足などについて理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。 2. 本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く。 3. 側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料（関係副詞whenの継続用法／複合関係代名詞whatever／倒置）を理解する。 4. 側注・脚注の語彙の意味や、Hints for Understandingの言語材料の用法の理解を基に、本文の内容を読み取る技能を身に付ける。 5. 本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理し、側注・脚注の語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付ける。 [英語演習ノート]重要な文法項目を復習、確認する	小テスト・期末考査	学年末考査	パフォーマンス課題 予習・復習 (プリントなど)
	3					
		学年末考査		定期考査		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

日常のおよび社会的な話題について、英語で聞いたり・読んだりした内容の要点をつかむために、多様な確認問題に取り組みます。また、英文法についても多く取り扱います。
授業では英語で質問に答えたり、ペアワークをします。積極的に英語を使うようにして、コミュニケーション能力を一緒に高めていきましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	家庭基礎	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：家庭基礎 つながる暮らし 供につくる未来（教育図書） 副教材：LIFE おとなデジタルガイド+（教育図書）					
評価	評価法	①定期考査 ②作品・レポート課題 ③プリント提出 ④振り返りシート ⑤授業での取り組み態度等により評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解しているとともに、それらに係る技術を身につけている。		
		②	思考・判断・表現	家庭や地域及社会における生活の中から問題を見出して課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4・5・6	* 生活設計 1 自分の将来を見通そう	<ul style="list-style-type: none"> 各ライフステージの特徴と課題を理解する。 これから起こる人生のライフイベントを想定し、目標を立て、そのための意思決定について考える 自分自身の衣生活の分析を通して、衣服や日常の衣生活に関心を持つ 衣服の素材（繊維・糸・布）の種類や特徴について理解する 衣服の表示について理解し、日常生活の中での活用について考える 衣服の手入れ、管理の方法について理解する 基本的な衣服製作の技術を身に付ける 私たちの衣生活が環境に与える影響を考え、持続可能な衣生活について考える。 	① ② ④	① ② ③ ④	③ ④ ⑤
		* 衣生活 1 衣服のはたらき 2 衣服ができるまで 3 衣服日計画と管理 * 被服実習 4 これからの衣生活				
	7	* 住生活 1 住まいとは 2 安全な住まい 3 快適な住まい 4 住まいの課題と未来の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 人と住まいのかかわりや、住まいの機能について理解する 安全で快適な住生活のための対策を具体的に考え、工夫する。 住居の平面図を読み取ることができるようになる。 日本の住宅事情や課題を理解し、持続可能な住まい方の工夫について考える。 	②	②	②
* 環境 1 環境問題を考える 2 私たちにできること		<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について基本的な内容を理解する。 持続可能な社会のためにどう行動したらよいか考える。 				
		* ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 生活の課題を見つけ、その改善方法を考え、実践する。 	②	②	②

2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> * 食生活 1 「食べる」ということ 2 私たちが食べているもの 3 安全に食べるために 4 健康に食べるために ・ 調理実習 5 おいしく食べるために 	<p>食事と健康のかかわりや、人の一生における食事の役割について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品に含まれる栄養素の種類や機能、主な食品の特徴について理解する。 ・安全や健康の観点から、食品を適切に選択したり保存したりする方法について理解する。 ・調理の基本的な技術を身につけ、安全や衛生面に配慮した調理ができるようになる。 ・料理の盛り付けや配膳、食事のマナーの基本を理解する。 ・食品ロスなど具体的な問題点から、現代の食生活の問題や課題について考える。 ・衣服の手入れ、管理の方法について理解する ・基本的な衣服制作の技術を身につける ・私たちの衣生活が環境に与える影響を考え、持続可能な衣生活について考える。 			
	10	<ul style="list-style-type: none"> * 経済計画 1 家計のお金の将来を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の仕組みについて理解し、家計は社会と密接にかかわっていることを知る。 ・金融商品の特徴を理解し、将来の財産管理について考える。 ・生涯を見通した経済計画の重要性について理解する 	① ② ④	① ② ③ ④	③ ④ ⑤
	11	<ul style="list-style-type: none"> * 消費生活 1 何をどうやって買う 2 賢い消費者になろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、自分の消費行動について客観的に考える。 ・一人で契約するときの注意点や心構えについて理解する。 ・消費者トラブルと、消費者保護のしくみについて理解する。 ・消費者市民社会の実現に向けて、自立した消費者としてどのように行動したらよいかを考える。 			
	12	<ul style="list-style-type: none"> * 青年期と家族 1 これからの人生に向かって 2 家族・家庭とは何だろう 3 これからの家庭生活と社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期とはどのような時期なのかを知り、青年期に必要な自立について考える。 ・家族・家庭とは何かをさまざまな観点から考えて自分なりの価値観を築く ・家庭生活を支える基本的な法律について理解する。 ・男女共同参画社会について知り、実現のためにできることについて考える。 			
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> * 保育 1 子どもの成長を見つめる 2 子どもの生活と保育 3 これからの子育て環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心身の特徴や、遊びの意義を知り、子どもにとって良い環境について考える。 ・親の役割や愛着の大切さ、子どもを産み育てることの意義を学ぶ ・子どもとの適切なかかわり方について工夫する。 ・社会全体で子育てを支援し、子育ての環境整備を行うことの重要性を理解する。 			
	2	<ul style="list-style-type: none"> * 高齢期 1 高齢期ってどういう時期？ 2 高齢化する日本を生きる 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の心身の特徴を知り、高齢期に多い疾病について理解する ・高齢者の生活や、社会的な支援のあり方について考える。 ・高齢者を支える基本的な制度や仕組みについて理解する 	① ② ④	① ② ③ ④	③ ④ ⑤
	3	<ul style="list-style-type: none"> * 共生社会 1 共生とは 2 ノーマライゼーションとは <p>*学校家庭クラブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の重要性について理解する ・自助・互助・共助・公助について理解する ・共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え、工夫する。 <p>・学校家庭クラブの活動に関心を持ち、自分や周囲の人々の生活を豊かにする方法を考える。</p>			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

将来の自立に向けて、生きていくうえで必要な知識や技術を身に付けていきましょう。人との「かかわり」や「つながり」を大切にして、生活を楽しむ力や幸せをつかみ取る力をつけてもらいたいと思います。そのためには、「気づき」と「実践」の力が必要です。私たちの生活に直結することを学習しますので、学校で学び、考えたことを家庭でも実践して下さい。

また、日ごろから新聞やニュースなどを通して、今、社会で問題になっていることについて関心をもつことが大切です。自分の生活に興味・関心をもって学習に取り組みましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究	開発	利用	I類	II類	III類
		1	1	1	1	1
学習の目標	商業に関する課題を分野ごとに設定し、その課題の解決を図る学習をととして、専門的な知識と技術の進化、総合化を図るとともに問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育む。					
使用教材	副教材：高校生のための「探究学習」ワーク（学事出版）					
評価	評価法	小テスト・パフォーマンス課題（レポート・発表）・活動報告書など				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。		
		②	思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	地域の課題・魅力発見	・講座目標、評価方法について ・チーム作り ・京都校外学習（フィールドワーク・情報の収集）	小テスト	レポート	小テスト・活動報告書
	5		・課題の発見			
	6		・課題の設定			
	7		・情報の収集、整理、分析			
2 学期	9	課題解決策を提案、魅力を発信	・情報の収集、整理、分析	小テスト	レポート・発表	小テスト・活動報告書
	10		・情報の収集、整理、分析			
	11		・情報の収集、整理、分析 ・台湾修学旅行（現地研修・情報の収集）			
	12		・研究のまとめ			
3 学期	1	課題解決策を提案、魅力を共有	・解決策の提案 ・研究の発表 ・探究成果発表会	小テスト	レポート・発表	小テスト・活動報告書
	2		・次年度の課題研究について ・気づきや学びの振り返り			
	3		・新たな課題の課題設定			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年次の長浜・近江八幡での校外学習や、大津でのフィールドワークで学んだことを踏まえ、2年次では、自分達なら地域の課題をどう解決できるだろうか、地域の魅力をどう伝えていくことができるだろうか考えます。大津を観光で活性化するビジネスプランをチームで考えていきましょう。

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	マーケティング	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	4	-	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を身に付ける。 ① マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ② マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③ ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。					
使用教材	教科書：マーケティング 新訂版（実教出版）					
評価	評価法	定期考査 小テスト など				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付ける。		
		②	思考・判断・表現	企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要することなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考える。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学が態度及び組織の一員として自己の役割を認識する。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	introduction 第1章 マーケティングの概要 1 マーケティングの歴史と発展 2 現代の市場とマーケティング 3 マーケティング環境の分析 4 マーケティング・マネジメント	マーケティングを学ぶ意義を理解する。 現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学ぶ。 現代市場における消費者保護や環境問題、法令遵守、企業の社会的責任などの重要性について理解を深め、マーケティングの意義や一連の流れを学ぶ。	中間考査 小テスト	中間考査 小テスト	振り返りシート、プリント
	5	第2章 消費者行動の理解 1 消費者の心理と行動の関係 2 購買意思決定過程 3 消費者行動に影響を与える要因 第3章 市場調査 1 市場調査の概要 2 市場調査の手順 3 仮説検証の手順 4 実態調査の方法	マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について学ぶ。 消費者の心理や購買意思決定までの過程、消費者行動に影響を与える要因について理解する。 消費者行動について自ら学び、主体的かつ協動的に取り組む。 市場調査について理解し、関連する技術を学ぶ。 市場調査に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づく調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析する。 市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に積極的に取り組む。	中間考査 小テスト	中間考査 小テスト	振り返りシート、プリント
	6	第4章 STP 1 セグメンテーション 2 ターゲティング 3 ポジショニング	STP分析に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。 STP分析について自ら学び、主体的かつ協動的に取り組む。	期末考査 小テスト	期末考査 小テスト	振り返りシート、プリント
	7	第5章 製品政策 1 製品政策の概要 2 新製品開発 3 販売計画と生産計画 4 製品政策の動向	製品政策について企業における事例と関連づけて理解する。 製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善する。 製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協動的に取り組む。	期末考査 小テスト	期末考査 小テスト	振り返りシート、プリント

2 学 期	9	第6章 価格政策 1 価格政策の概要 2 価格の設定方法 3 価格政策の動向	価格政策について企業における事例と関連づけて理解する。 価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善する。 価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組む。	期末考 査 小テスト	期末考 査 小テスト	振り返 りシ ート、 プ リ ン ト
	10	第7章 チャネル政策 1 チャネル政策の概要 2 チャネルの選択と管理 3 チャネル政策の動向	チャネル政策について企業における事例と関連づけて理解する。 チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善する。 チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組む。	期末考 査 小テスト	期末考 査 小テスト	振り返 りシ ート、 プ リ ン ト
	11	第8章 プロモーション政策 1 プロモーション政策の概要 2 プロモーションの種類	プロモーション政策について企業における事例と関連づけて理解する。 プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善する。 プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組む。	期末考 査 小テスト	期末考 査 小テスト	振り返 りシ ート、 プ リ ン ト
	12	第9章 マーケティングのひろがり 1 さまざまなマーケティング戦略	マーケティングの広がりについて企業における事例と関連づけて理解する。	期末考 査 小テスト	期末考 査 小テスト	振り返 りシ ート、 プ リ ン ト
3 学 期	1	第9章 マーケティングのひろがり 2 サービス・マーケティング 3 小売マーケティング 4 観光地マーケティング	マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。	学年末 考 査 小テスト	期末考 査 小テスト	振り返 りシ ート、 プ リ ン ト
	2	第9章 マーケティングのひろがり 5 グローバルマーケティング 6 ソーシャル・マーケティング	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	学年末 考 査 小テスト	期末考 査 小テスト	振り返 りシ ート、 プ リ ン ト
	3	学年末考査	1年間の振り返り	学年末 考 査	学年末 考 査	振り返 りシ ート、 プ リ ン ト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

マーケティングの学習は、私たちの生活にとっても身近で具体的なものです。学習を通して、マーケティングの全体像を理解し商品開発や販売促進等、興味を持てるテーマを見つけ出してください。

2月に商業経済検定（マーケティング）を受けています。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	財務会計Ⅰ（情報システム科）	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	-	-	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：新財務会計Ⅰ（実教出版） 副教材：反復式 会計問題集 全商1級会計（実教出版） 反復式 学習と検定 簿記検定問題集 全商2級（実教出版）					
評価	評価法	定期考査・小テスト、課題考査、問題集、振り返りシートで評価				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		
		②	思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	株式会社の設立	・株式会社の設立と開業に関する会計処理を理解する。			問題集 振り返りシート
		第1章 企業と会計	・企業会計の意味と役割について理解する。 ・財務会計の機能について理解する。	小テスト	小テスト	
		第2章 企業会計制度と会計法規	・会計公準について理解する。 ・企業会計原則の意味を明らかにし、一般原則及び重要性の原則について理解する。			
		第3章 貸借対照表のあらまし	・貸借対照表の意味と役割を理解する。			
	5	第4章 資産の意味・分類・評価	・資産の評価の意味と損益計算との関係について理解する。			
		第5章 流動資産 当座資産	・現金預金の期末における取り扱いおよび銀行勘定調整法の作成について習得する。 ・受取手形、電子記録債権、売掛金、クレジット売掛金、有価証券の期末評価について理解する。	小テスト	小テスト	
		第6章 流動資産 棚卸資産・その他の流動資産	・棚卸資産の意味と種類を理解する。 ・売価還元法の計算方法を理解する。 ・その他の流動資産の各項目の会計処理を習得する。			
		中間考査		定期考査	定期考査	
	第7章 固定資産 有形固定資産	・有形固定資産の意味と種類を理解する。 ・資本的支出・収益的支出の意味を明らかにし、それぞれの処理方法を習得する。 ・固定資産の除却と買い替えの記帳について習熟する。	小テスト	小テスト	問題集 振り返りシート	
	第8章 固定資産 無形固定資産	・無形固定資産の意味と種類を理解する。 ・無形固定資産の期末評価について理解する。				

1 学期	6	第9章 固定資産 投資その他の資産	・投資その他の資産の意味と種類を理解する。 ・投資その他の資産の期末評価について理解する。	小テスト	小テスト	問題集 振り返りシート
		第10章 負債の意味と分類	・負債の意味について、基礎的知識を習得する。 ・負債の分類について、基礎的知識を習得する。			
		第11章 流動負債	・引当金の意味と評価性引当金、負債性引当金の区別し、流動負債に属する引当金を理解する。			
		第12章 固定負債	・固定負債の各項目の内容を習得する。 ・長期借入金とリース債務について、1年以内に返済および支払いが行われる部分についての処理方法を習得する。 ・退職給付引当金の処理方法を習得する。			
		期末考査		定期考査	定期考査	
	7	第13章 純資産の意味と分類	・純資産の意味と分類について、理解する。 ・株式会社の株主資本の分類および内容を理解する。	課題考査	課題考査	問題集 振り返りシート
2 学期	9	第14章 資本金	・株式会社の資本金の意味と計算を習得する。 ・資本金の増加・減少の内容の処理方法を習得する。	小テスト	小テスト	問題集 振り返りシート
		第15章 資本剰余金	・資本剰余金の意味を理解する。 ・資本準備金、その他資本剰余金に関する処理を理解する。			
		第16章 利益剰余金	・利益剰余金の意味を理解する。 ・繰越利益剰余金の内容とその処理方法を習得する。			
		第17章 自己株式	・自己株式の意味を理解する。 ・自己株式の取得・処分・消却の会計処理を習得する。			
		第18章 新株予約権	・新株予約権の意味を理解する。 ・新株予約権の発行・行使の会計処理を習得する。			
		第19章 貸借対照表の作成	・貸借対照表作成上の諸原則を理解し、その作成方法を習得する。			
	10	第20章 損益計算書のあらまし	・損益計算書の意味と役割を理解する。	小テスト	小テスト	問題集 振り返りシート
		第21章 損益計算の意味と基準	・損益計算の意味とその二つの計算方法（財産法と損益法）について十分理解する。			
		第22章 売上高	・売上高の計上基準と、それらに基づいた会計処理を理解する。 ・工事収益の計上基準と、それぞれの処理方法を理解する。			
		第23章 売上原価、販売費及び一般管理費	・売上原価の意味と計算方法を理解する。 ・販売費及び一般管理費の意味を理解する。			
11	第24章 営業外費用・営業外収益	・経常的な損益のうち、主として財務活動から生じる営業外収益・営業外費用の内容および経常損益の概念を理解する。	小テスト	小テスト		
	第25章 特別利益・特別損失	・特別利益・特別損失の意味と内容およびそれらの会計処理を理解する。				
	第26章 損益計算書の作成	・損益計算書作成上の諸原則を明らかにし、その作成方法を習得する。				
		期末考査		定期考査	定期考査	
12	第27章 その他の財務諸表	・株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解する。	小テスト	小テスト		

3 学 期	課題考査		課題考査	課題考査		
	1	第28章 役務収益・役務原価	<ul style="list-style-type: none"> ・役務収益，役務原価の意味を理解する。 ・商品の販売とサービスの提供の違いについて理解する。 ・外貨建取引の意味を理解する。 ・円換算の意味を理解し，適切な会計処理を習得する。 ・為替予約の会計処理を習得する。 ・税効果会計の意味と役割を理解する。 ・税効果会計の会計処理を理解する。 	小テスト	小テスト	問題集 振り返り シート
		第29章 外貨建取引				
		第30章 税効果会計				
2	第31章 財務諸表のディスクロージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解する。 ・関係比率法・構成比率法・趨勢法・実数法による分析の種類など，それぞれの計算方法について理解する。 	定期考査	定期考査		
	第32章 財務諸表分析 期末考査					
3	第33章 連結財務諸表	<ul style="list-style-type: none"> ・連結財務諸表の意味や目的などの概要を理解する。 ・連結財務諸表の重要性を理解する。 	小テスト	小テスト	問題集 振り返り シート	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1級会計は出題範囲が広く多岐にわたるため、合格するためには長期間にわたる学習と努力が必要になります。したがって、学習した内容を忘れないようにすることが大事であり、そのために小テストを実施します。これらが成績に加算されることから日々の授業を大切に、最後まで諦めず頑張ってください。また、全商簿記2級の検定も合格を目指しましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	財務会計Ⅰ（Ⅰ類）	開発	利用	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類
		-	-	4	-	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：新財務会計Ⅰ（実教出版） 副教材：反復式 会計問題集 全商1級会計（実教出版） 反復式 学習と検定 簿記検定問題集 全商2級（実教出版）					
評価	評価法	(知識・技術) 定期考査・確認テスト(思考・判断・表現) 定期考査・確認テスト (主体的に学習に取り組む姿勢) 小テスト・提出物				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		
		②	思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	株式会社の設立 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社の設立と開業に関する会計処理を理解する。 企業会計の意味と役割について理解する。 財務会計の機能について理解する。 会計公準について理解する。 企業会計原則の意味を明らかにし、一般原則及び重要性の原則について理解する。 貸借対照表の意味と役割を理解する。 資産の評価の意味と損益計算との関係について理解する。 			
	5	第5章 流動資産 当座資産 第6章 流動資産 棚卸資産・その他の流動資産 中間考査 第7章 固定資産 有形固定資産 第8章 固定資産 無形固定資産	<ul style="list-style-type: none"> 現金預金の期末における取り扱いおよび銀行勘定調整法の作成について習得する。 受取手形、電子記録債権、売掛金、クレジット売掛金、有価証券の期末評価について理解する。 棚卸資産の意味と種類を理解する。 売価還元法の計算方法を理解する。 その他の流動資産の各項目の会計処理を習得する。 有形固定資産の意味と種類を理解する。 資本的支出・収益的支出の意味を明らかにし、それぞれの処理方法を習得する。 固定資産の除却と買い替えの記帳について習熟する。 無形固定資産の意味と種類を理解する。 無形固定資産の期末評価について理解する。 	考査	考査	小テスト 小テスト 提出物 小テスト
	6	第9章 固定資産 投資その他の資産 第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債	<ul style="list-style-type: none"> 投資その他の資産の意味と種類を理解する。 投資その他の資産の期末評価について理解する。 負債の意味について、基礎的知識を習得する。 負債の分類について、基礎的知識を習得する。 引当金の意味と評価性引当金、負債性引当金の区別し、流動負債に属する引当金を理解する。 			小テスト

1 学期	6	第12章 固定負債 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・固定負債の各項目の内容を習得する。 ・長期借入金とリース債務について、1年以内に返済および支払いが行われる部分についての処理方法を習得する。 ・退職給付引当金の処理方法を習得する。 	考査	考査	小 テスト 提出物	
	7	第13章 純資産の意味と分類	<ul style="list-style-type: none"> ・純資産の意味と分類について、理解する。 ・株式会社の株主資本の分類および内容を理解する。 				
2 学期	9	第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権 第19章 貸借対照表の作成 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 損益計算の意味と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の資本金の意味と計算を習得する。 ・資本金の増加・減少の内容の処理方法を習得する。 ・資本剰余金の意味を理解する。 ・資本準備金、その他資本剰余金に関する処理を理解する。 ・利益剰余金の意味を理解する。 ・繰越利益剰余金の内容とその処理方法を習得する。 ・自己株式の意味を理解する。 ・自己株式の取得・処分・消却の会計処理を習得する。 ・新株予約権の意味を理解する。 ・新株予約権の発行・行使の会計処理を習得する。 ・貸借対照表作成上の諸原則を理解し、その作成方法を習得する。 ・損益計算書の意味と役割を理解する。 ・損益計算の意味とその二つの計算方法（財産法と損益法）について十分理解する。 	確認 テスト	確認 テスト	小 テスト 小 テスト	
	10	第22章 売上高 第23章 売上原価、販売費及び一般管理費 第24章 営業外費用・営業外収益 第25章 特別利益・特別損失	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高の計上基準と、それらに基づいた会計処理を理解する。 ・工事収益の計上基準と、それぞれの処理方法を理解する。 ・売上原価の意味と計算方法を理解する。 ・販売費及び一般管理費の意味を理解する。 ・経常的な損益のうち、主として財務活動から生じる営業外収益・営業外費用の内容および経常損益の概念を理解する。 ・特別利益・特別損失の意味と内容およびそれらの会計処理を理解する。 			小 テスト 小 テスト	
	11	第26章 損益計算書の作成 第27章 その他の財務諸表 第28章 役務収益・役務原価 第29章 外貨建取引 第30章 税効果会計 第31章 財務諸表のディスクロージャー 第32章 財務諸表分析 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・損益計算書作成上の諸原則を明らかにし、その作成方法を習得する。 ・株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解する。 ・役務収益、役務原価の意味を理解する。 ・商品の販売とサービスの提供の違いについて理解する。 ・外貨建取引の意味を理解する。 ・円換算の意味を理解し、適切な会計処理を習得する。 ・為替予約の会計処理を習得する。 ・税効果会計の意味と役割を理解する。 ・税効果会計の会計処理を理解する。 ・企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解する。 ・関係比率法・構成比率法・趨勢法・実数法による分析の種類など、それぞれの計算方法について理解する。 	確認 テスト	確認 テスト	小 テスト 小 テスト 小 テスト	
	12	第33章 連結財務諸表	<ul style="list-style-type: none"> ・連結財務諸表の意味や目的などの概要を理解する。 ・連結財務諸表の重要性を理解する。 			小 テスト	
	3 学期	1	全商簿記検定演習 全商簿記検定1級会計受験	・全商簿記検定1級会計合格に向けて模試などの演習をおこなう			提出物
		2	全商会計問題演習 学年末考査	・全商会計1級の内容をプリントでおこなう。	考査	考査	小 テスト
		3	全商会計問題演習	・全商会計1級の内容をプリントでおこなう。			小 テスト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1級会計は出題範囲が広く多岐にわたるため、合格するためには長期間にわたる学習と努力が必要になります。したがって、学習した内容を忘れないようにすることが大事であり、そのために小テストを実施します。これらが成績に加算されることから日々の授業を大切に、最後まで諦めず頑張ってください。また、全商簿記2級の検定も合格を目指しましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	財務会計Ⅰ（Ⅱ類・Ⅲ類）	開発	利用	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類
		-	-	-	4	4
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：新財務会計Ⅰ（実教出版） 副教材：段階式 学習と検定 会計問題集 全商1級会計（実教出版） 反復式 学習と検定 簿記検定問題集 全商2級（実教出版）					
評価	評価法	(知識・技術) 定期考査・確認テスト(思考・判断・表現) 定期考査・確認テスト (主体的に学習に取り組む姿勢) 小テスト・提出物				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		
		②	思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	株式会社の設立 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価	・株式会社の設立と開業に関する会計処理を理解する。 ・企業会計の意味と役割について理解する。 ・財務会計の機能について理解する。 ・会計公準について理解する。 ・企業会計原則の意味を明らかにし、一般原則及び重要性の原則について理解する。 ・貸借対照表の意味と役割を理解する。 ・資産の評価の意味と損益計算との関係について理解する。			
	5	第5章 流動資産 当座資産	・現金預金の期末における取り扱いおよび銀行勘定調整法の作成について習得する。 ・受取手形、電子記録債権、売掛金、クレジット売掛金、有価証券の期末評価について理解する。			小テスト
		第6章 流動資産 棚卸資産・その他の流動資産 中間考査	・棚卸資産の意味と種類を理解する。 ・売価還元法の計算方法を理解する。 ・その他の流動資産の各項目の会計処理を習得する。	考査	考査	小テスト 提出物
		第7章 固定資産 有形固定資産	・有形固定資産の意味と種類を理解する。 ・資本的支出・収益的支出の意味を明らかにし、それぞれの処理方法を習得する。 ・固定資産の除却と買い替えの記帳について習熟する。			小テスト
	6	第8章 固定資産 無形固定資産	・無形固定資産の意味と種類を理解する。 ・無形固定資産の期末評価について理解する。			
		第9章 固定資産 投資その他の資産 第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債	・投資その他の資産の意味と種類を理解する。 ・投資その他の資産の期末評価について理解する。 ・負債の意味について、基礎的知識を習得する。 ・負債の分類について、基礎的知識を習得する。 ・引当金の意味と評価性引当金、負債性引当金の区別し、流動負債に属する引当金を理解する。			小テスト

1 学期	6	第12章 固定負債 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・固定負債の各項目の内容を習得する。 ・長期借入金とリース債務について、1年以内に返済および支払いが行われる部分についての処理方法を習得する。 ・退職給付引当金の処理方法を習得する。 	考査	考査	小 テスト 提出物	
	7	第13章 純資産の意味と分類	<ul style="list-style-type: none"> ・純資産の意味と分類について、理解する。 ・株式会社の株主資本の分類および内容を理解する。 				
2 学期	9	第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権 第19章 貸借対照表の作成 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 損益計算の意味と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の資本金の意味と計算を習得する。 ・資本金の増加・減少の内容の処理方法を習得する。 ・資本剰余金の意味を理解する。 ・資本準備金、その他資本剰余金に関する処理を理解する。 ・利益剰余金の意味を理解する。 ・繰越利益剰余金の内容とその処理方法を習得する。 ・自己株式の意味を理解する。 ・自己株式の取得・処分・消却の会計処理を習得する。 ・新株予約権の意味を理解する。 ・新株予約権の発行・行使の会計処理を習得する。 ・貸借対照表作成上の諸原則を理解し、その作成方法を習得する。 ・損益計算書の意味と役割を理解する。 ・損益計算の意味とその二つの計算方法（財産法と損益法）について十分理解する。 	確認 テスト	確認 テスト	小 テスト 小 テスト	
	10	第22章 売上高 第23章 売上原価、販売費及び一般管理費 第24章 営業外費用・営業外収益 第25章 特別利益・特別損失	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高の計上基準と、それらに基づいた会計処理を理解する。 ・工事収益の計上基準と、それぞれの処理方法を理解する。 ・売上原価の意味と計算方法を理解する。 ・販売費及び一般管理費の意味を理解する。 ・経常的な損益のうち、主として財務活動から生じる営業外収益・営業外費用の内容および経常損益の概念を理解する。 ・特別利益・特別損失の意味と内容およびそれらの会計処理を理解する。 			小 テスト 小 テスト	
	11	第26章 損益計算書の作成 第27章 その他の財務諸表 第28章 役務収益・役務原価 第29章 外貨建取引 第30章 税効果会計 第31章 財務諸表のディスクロージャー 第32章 財務諸表分析 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・損益計算書作成上の諸原則を明らかにし、その作成方法を習得する。 ・株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解する。 ・役務収益、役務原価の意味を理解する。 ・商品の販売とサービスの提供の違いについて理解する。 ・外貨建取引の意味を理解する。 ・円換算の意味を理解し、適切な会計処理を習得する。 ・為替予約の会計処理を習得する。 ・税効果会計の意味と役割を理解する。 ・税効果会計の会計処理を理解する。 ・企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解する。 ・関係比率法・構成比率法・趨勢法・実数法による分析の種類など、それぞれの計算方法について理解する。 	確認 テスト	確認 テスト	小 テスト 小 テスト 提出物	
	12	第33章 連結財務諸表	<ul style="list-style-type: none"> ・連結財務諸表の意味や目的などの概要を理解する。 ・連結財務諸表の重要性を理解する。 			小 テスト	
	3 学期	1	全商簿記検定演習 全商簿記検定1級会計受験	・全商簿記検定1級会計合格に向けて模試などの演習をおこなう			提出物
		2	日商簿記検定演習 学年末考査	・日商簿記2級の内容をプリントでおこなう。	考査	考査	小 テスト
		3	日商簿記検定演習	・日商簿記2級の内容をプリントでおこなう。			小 テスト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1級会計は出題範囲が広く多岐にわたるため、合格するためには長期間にわたる学習と努力が必要になります。したがって、学習した内容を忘れないようにすることが大事であり、そのために小テストを実施します。これらが成績に加算されることから日々の授業を大切に、最後まで諦めず頑張ってください。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	原価計算	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	-	4	4
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：原価計算 新訂版（実教出版） 副教材：最新段階式 簿記検定問題集 全商1級原価計算（実教出版）					
評価	評価法	定期考査・小テスト、ノート、問題集振り返りシートで評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。		
		②	思考・判断・表現	原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1章 原価と原価計算	<ul style="list-style-type: none"> 工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解する。 工業簿記と原価計算の関係を理解する。 原価の意味（製造原価・総原価）を理解する。 	小テスト	小テスト	
		第2章 原価計算のあらまし	<ul style="list-style-type: none"> 原価要素の性格とその分類について理解する。 原価要素の集計のしかたと原価計算表の役割を理解する。 原価計算の四つの目的について理解する。 原価計算の手続きについて理解する。 原価計算期間について理解する。 原価計算の種類を理解する。 	小テスト	小テスト	
		第3章 工業簿記-製造業における簿記-	<ul style="list-style-type: none"> 工業簿記における勘定記入の特徴を理解する。 工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解する。 工業簿記の一連の記帳手続を学習させることにより，全体的な構造を理解する。 	小テスト	小テスト	
		第4章 材料費の計算	<ul style="list-style-type: none"> 材料費の分類とその内容を理解する。 材料費の仕入れと記帳方法，元帳への転記を理解する。 材料の保管について理解する。 棚卸減耗の意味とその処理方法を理解する。 材料の消費と記帳方法，原価元帳への記入方法について理解する。 材料の消費単価と消費数量の計算方法について理解する。 予定価格により，消費高を計算することの意味，予定価格を用いた二通りの記帳法を理解する。 	小テスト	小テスト	

1 学期	5	第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算 中間考査 第7章 個別原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・労務費の分類とその内容を理解する。 ・賃金支払高の計算と記帳方法を理解する。 ・賃金消費高の計算と記帳方法を理解する。 ・予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を理解する。 ・賃金以外の労務費の種類、その計算と記帳方法を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・経費の意味とその分類を理解する。 ・経費の消費高の計算と記帳方法を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算のしくみを理解する。 ・原価計算表の記入方法を理解する。 ・原価元帳と製造勘定の関係を理解する。 ・製造間接費の配賦についての概要を理解する。 ・実際配賦率による配賦の欠点を説明し、予定配賦率による配賦を理解する。 ・製造間接費の差異分析を理解する。 ・仕損品・作業くずの処理を理解する。 	小テスト	小テスト	問題集 振返 シート
	6	第8章 部門別個別原価計算 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別個別原価計算の必要性を理解する。 ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割を理解する。 ・部門別個別原価計算の手続きの全体の流れを理解する。 ・部門費配分表、部門費振替票を作成し、それぞれにもとづく仕訳を、マスターする。 ・製造部門費予定費配賦表を作成し、それぞれにもとづく仕訳を、マスターする。 ・部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認する。 	小テスト 考査	小テスト 考査	
	7	第9章 総合原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・生産形態の違いから、原価計算の方法も異なることを理解する。 			
2 学期	9	課題考査 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。 ・総合原価計算の種類を理解する。 ・単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れを理解する。 ・月末仕掛品完成品換算数量・加工費・加工進捗度などの用語の意味を理解する。 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算をマスターする。 ・単純総合原価計算表の作成と記帳法に習熟する。 ・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表の作成に習熟する。 ・組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表の作成に習熟する。 <ul style="list-style-type: none"> ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解する。 	考査	考査	
	10	第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じ などの処理 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引	<ul style="list-style-type: none"> ・工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算のしくみを理解する。 ・工程別総合原価計算の手続きと記帳方法を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解する。 ・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法を理解する。 ・副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解する。 ・販売費及び一般管理費の記帳方法を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・月次決算の意味と年次決算との関連について理解する。 ・財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成に習熟する。 ・工場会計の独立と、その記帳方法について理解する。 	小テスト 考査	小テスト 考査	問題集 振返 シート

2 学 期	11	第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2） 第16章 直接原価計算（その1） 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知らせる。 標準原価計算の意義と特色，全体的な流れを理解する。 完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 原価差異の計算とその分析方法を理解する。 標準原価計算の記帳方法を理解する。 標準原価計算による損益計算書の作成方法を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 直接原価計算が利益計画に適している理由を知る。 直接原価計算表の意義と特色を理解する。 直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解する。 	小テスト	小テスト	問題集 振返 シート
	12	第17章 直接原価計算（その2）	<ul style="list-style-type: none"> CVP分析や損益分岐図表により，売上高・原価・利益の関係を理解する。 高低点法を用いた原価予測の方法を理解する。 	小テスト	小テスト	
3 学 期	1	課題考査 検定演習	<ul style="list-style-type: none"> 全商簿記実務検定試験1級原価計算の理解を深める。 	課題考査	課題考査	
	2	第17章 直接原価計算（その2） 学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> CVP分析や損益分岐図表により，売上高・原価・利益の関係を理解する。 高低点法を用いた原価予測の方法を理解する。 	考査	考査	問題集 振返 シート
	3	進んだ学習	<ul style="list-style-type: none"> 日商簿記検定2級 問題演習を通し、理解と習熟の深化を図る。 			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

教科書、問題集の問題を繰り返し学習しましょう。

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	ソフトウェア活用（システム利用）	開発	利用	I類	II類	III類
		-	4	-	-	-
学習の目標	(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。					
使用教材	教科書：ソフトウェア活用（東京法令出版） 副教材：全商情報処理検定 模擬試験問題集1級 ビジネス情報編（東京法令出版）					
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、実技課題、振り返りシート等				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるソフトウェアの活用に責任をもって取り組む態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	序章「企業活動におけるソフトウェア活用」	<ul style="list-style-type: none"> ・データを使用目的にあわせてグループごとに集計したり、項目ごとに集計したりするための方法について学習する。 ・データを集計した結果を加工して、傾向をつかむための分析や、効率よく商品管理をするための分析をする方法について学習する。 ・集計、分析したデータを活用して経営に関する課題を発見し、解決策を見つける手法について学習する。 	中間考査	中間考査	
		第1章「表計算ソフトウェアの活用」 第1節「情報の集計」		中間考査	中間考査	
		第2節「情報の分析」		中間考査	中間考査	
	5	第3節「シミュレーション」	中間考査	中間考査		
		第4節「オペレーションズリサーチ」	中間考査	中間考査	振り返りシート	
		第5節「手続きの自動化」	中間考査	中間考査		
第5章「情報システムの基礎」 第1節「情報通信ネットワークの導入と運用」	期末考査	期末考査	振り返りシート			
第2節「情報資産の保護」	期末考査	期末考査				

1 学期	6	検定に向けての学習①	・全商情報処理検定ビジネス情報1級で出題される関数について理解する。	期末考 査	期末考 査	実技課 題
	7	検定に向けての学習①	・全商情報処理検定ビジネス情報1級で出題される関数について理解する。	課題	課題	課題
2 学期	8	課題考査	・全商情報処理検定ビジネス情報1級の類似問題を出題する。	課題考 査	課題考 査	課題考 査
	9	第2章 データベースソフトウェアの活用 第1節「データベースの重要性」 第3節 ⑤SQL 検定に向けての学習②	・ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているデータベースの概要や重要性について学習する。 ・データベースのデータを守るためのしくみについて学習する。 ・SQLの基本的な構文を理解する。 ・全商情報処理検定ビジネス情報1級に向けての学習をする。	小テスト 小テスト 模擬試 験	小テスト 小テスト 模擬試 験	振り返 りシ ート 模 擬 試 験
	10	第2節「リレーショナルデータベースの概要と設計」	・データベースを設計するために、データの正規化とE-Rモデルについて学習する。	期末考 査	期末考 査	
		第3節「データベースの作成と操作」 第3章「情報システムの開発」 第2節「データベースソフトウェアによる情報システムの開発」	・商品管理についてのデータベースを作成するために必要なデータベースソフトウェアの操作方法を学習する。また、学習内容を活用して報告書を作成する。 ・手続きの自動化とユーザフォームを活用した簡単なシステムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して学習する。	期末考 査 期末考 査	期末考 査 期末考 査	実技課 題 実技課 題
	11	第3章「情報システムの開発」 第2節「データベースソフトウェアによる情報システムの開発」	・手続きの自動化とユーザフォームを活用した簡単なシステムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して学習する。	期末考 査	期末考 査	実技課 題
12	第3章「情報システムの開発」 第2節「データベースソフトウェアによる情報システムの開発」	・手続きの自動化とユーザフォームを活用した簡単なシステムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して学習する。	期末考 査	期末考 査	実技課 題	
3 学期	1	検定に向けての学習③	・全商情報処理検定ビジネス情報1級に向けての学習をする。	課題	課題	課題
	2	第4章「業務処理用ソフトウェアの活用」 第1節「グループウェアの活用」 第2節「会計ソフトウェアの活用」	・企業活動において、組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。	期末考 査	期末考 査	実習レ ポート
	3	第4章「業務処理用ソフトウェアの活用」 第1節「グループウェアの活用」 第2節「会計ソフトウェアの活用」	・企業活動において、組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。	期末考 査	期末考 査	実習レ ポート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年次で学習する「情報処理」の発展授業となります。実習が中心の積み上げ学習ですので、毎回の復習をしっかりとるようにしましょう。

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	ソフトウェア活用（Ⅰ類・Ⅱ類）	開発	利用	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類
		-	-	2	2	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を身に付ける。					
使用教材	教科書：ソフトウェア活用（実教出版） 副教材：全商情報処理検定 模擬試験問題集 2級（実教出版） 全商情報処理検定 模擬試験問題集 1級（実教出版）					
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、レポート、振り返りシート等				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	1年次復習 応用的なグラフ	1年次に学習した表計算ソフトウェアにおける関数の利用、操作について復習する。	定期考査 課題考査	定期考査 課題考査	実習 レポート 課題考査
	5	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 ①統計の基礎 ②情報の集計	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。	定期考査	定期考査	実習 レポート
		2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタをLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解するとともに、情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や、暗号化の種類、データのバックアップなどについての基本的な技術を身に付ける。	定期考査	定期考査	実習 レポート
		中間考査			定期考査	定期考査 振り返りシート
	5	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作	データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。	定期考査	定期考査	振り返りシート 実習 レポート

1 学期	6	3章 表計算ソフトウェアの活用① 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	表計算ソフトを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。	定期考査	定期考査	振り返りシート 実習 レポート
	7	総合問題演習	検定試験を通して、情報処理に関する分野の知識および操作技術の向上を目指す。	課題考査	課題考査	実習 レポート
		期末考査			定期考査	定期考査 振り返りシート
2 学期	9	総合問題演習	検定試験を通して、情報処理に関する分野の知識および操作技術の向上を目指す。	課題考査 小テスト	課題考査 小テスト	実習 レポート
	10	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 ③情報の分析	表計算ソフトを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	振り返りシート 実習 レポート
	11	3章 表計算ソフトウェアの活用 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース	表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。 データベースの特徴や基本的な機能を理解する。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	振り返りシート 実習 レポート
	12	4章 データベースソフトウェアの活用 5節 SQLの操作	SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	振り返りシート 実習 レポート
		期末考査			定期考査	定期考査 振り返りシート
3 学期	1	総合問題演習	検定試験を通して、情報処理に関する分野の知識および操作技術の向上を目指す。	課題考査	課題考査	振り返りシート 実習 レポート
	2	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース	データベースの特徴や基本的な機能を理解する。			振り返りシート 実習 レポート
	3	2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化	データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。 フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。	小テスト	小テスト	
		学年末考査			定期考査	定期考査 振り返りシート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年次で学習する「情報処理」の発展授業となります。実習が中心の積み上げ学習ですので、毎回の復習をしっかりするようにしましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	プログラミング	開発	利用	I類	II類	III類
		4	-	-	-	-
学習の目標	(1)プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。					
使用教材	教科書：プログラミング（東京法令出版） 副教材：全商情報処理検定 模擬問題集 2級[プログラミング部門]（実教出版） 1級[プログラミング部門]（実教出版）					
評価	評価法	定期考査、課題考査、小テスト、問題集、振り返りシート等				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	実務と関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	プログラミングをはじめとしたさまざまな知識、技術を活用して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見しようとしている。また、プログラムと情報システムの開発が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、課題に対して最適な解を導き出し、よりよく解決するための力を身に付けている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に責任をもって取り組む態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1	4	第1章 「情報システムの重要性」 第2章 「ハードウェアとソフトウェア」 第3章 「アルゴリズムの表現技法とデータ構造」 第1節 「アルゴリズムの表現技法」 ①アルゴリズムの表現技法	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの概要や、プログラムの役割、プログラミングを学ぶ意義について学習する。 情報システムの有用性と課題について学習する。 1年次「情報処理」での学習を踏襲する。 アルゴリズムとは何か、学習する。 処理手順を表現するための技法について学習する。 流れ図の基礎 集計、件数、最大値、最小値、多分岐、の各処理のアルゴリズムを学習する。 	小テスト	小テスト	振り返りシート

1 学期	5	第4章 「手続き型言語のプログラミング」 第1節 「プログラミングの手順」 第2節 「データの入出力と演算」 第3節 「条件判定と繰り返し処理」 ①条件判定	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアのプログラミング機能について学習するための前段階として、開発画面を概観する。 実際にプログラムを作成して実行するまでの一連の手順を確認する。 変数と定数及びデータ型について学習する。 プログラムへのデータの入力や、プログラムによるデータの出力について学習する。 プログラムで四則演算を行う方法について学習する。 条件によってプログラムの流れを分岐される方法について、Ifステートメントなどと関連付けて学習する。 			
		中間考査		定期考査	定期考査	
	6	②一定回数の繰り返し ③条件による繰り返し 第4節 「配列の利用」 ①配列とは ②配列を利用した集計 ③線形探索	<ul style="list-style-type: none"> 同じ処理を繰り返すときに使うFor ~ Nextステートメントについて学習する。 ある条件を満たしている間だけ処理を繰り返すDo ~ Loopステートメントについて学習する。 配列とは何か、学習する。 配列を利用した集計方法について学習する。 線形探索のアルゴリズム及び線形探索をプログラムで実現する方法について学習する。 			
		期末考査		定期考査		
	7	第5章 「プログラミングと情報システムの開発」 第1節 第2節 第3節 「情報システムの評価と改善」 第4節 総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> * 「ネットワーク管理」にて学習 * 「ネットワーク管理」にて学習 ・ 情報システムを正しく評価するための手法について学習する。 * 「ネットワーク管理」にて学習 ・ 全商情報処理検定2級プログラミング部門の学習 			振返シート
2 学期	9	課題考査 総合演習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全商情報処理検定2級レベルの試験 ・ 全商情報処理検定2級プログラミング部門の学習 	課題考査 小テスト	課題考査 小テスト	振返シート
	10	第4節 「配列の利用」 ⑦多次元配列 第4節 「配列の利用」 ④二分探索	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二次元配列を利用した集計方法について学習する。 ・ 二分探索のアルゴリズム及び二分探索をプログラムで実現する方法について学習する。 	小テスト 小テスト	小テスト 小テスト	振返シート
	11	⑤順位付け ⑥並べ替え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順位付けのアルゴリズム及び順位付けをプログラムで実現する方法について学習する。 ・ 並べ替えのアルゴリズム（交換法・選択法・挿入法）及び並べ替えをプログラムで実現する方法について学習する。 	小テスト 小テスト	小テスト 小テスト	振返シート
		期末考査		定期考査	定期考査	
	12	総合問題演習	全商情報処理検定1級プログラミング部門の学習			

3 学 期	1	総合問題演習	全商情報処理検定1級プログラミング部門の学習	小テスト	小テスト	振返シート
	2	第6章 「手続き型言語を用いた情報システムの開発」 第1節 「情報システムの開発演習①」 ①売上集計システムの開発 第2節 「情報システムの開発演習②」 ①ワークシートを活用した情報システムの開発	・これまで学習してきたアルゴリズム，ユーザフォーム，システム開発などの知識を活かして，売上集計システムを開発する。 ・これまでの学習内容に加え，表計算ソフトウェアのワークシートを活用する方法を用いて料理イベントの参加者名簿を生成するシステムを開発する。			振返シート
	3	学年末考査		定期考査	定期考査	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

プログラミングは、楽しいものです。ちょっとしたパズルを解くような面白さがあります。エラーが出て思ったとおりに動かないこともありますが、それを一つひとつ解決していくことそのものに楽しさと面白さがつまっています。プログラミングをとおしてより豊かな思考力を身につけていきましょう。

令和7年度

学年	2年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	ネットワーク活用	開発	利用	I類	II類	III類
		-	3	-	-	-
学習の目標	(1) ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。					
使用教材	教科書：ネットワーク活用（東京法令出版）					
評価	評価法	定期考査・レポート・作品提出・パフォーマンス課題（プレゼンテーション）・振り返りシートで評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	第1章 情報技術の進歩とビジネス 第1節 ビジネスの変化	・情報技術の進歩によってビジネスがどのように変化していったのかを学習する。 ・ネットワークをビジネスに活用することの重要性について学習する。	定期考査	定期考査	レポート課題
		第2節 個人情報と知的財産の保護	・ネットワークを活用したビジネスを行う上では、個人情報や知的財産の保護に配慮しなければならないことについて学習する。	定期考査	定期考査	
		第3節 関係法規とガイドライン	・ネットワークを活用したビジネスを行うことに関連した法規やガイドラインの概要を学習する。 ・これらの法規やガイドラインを遵守することの重要性について学習する。	定期考査	定期考査	
	5	第2章 インターネットと情報セキュリティ 第1節 インターネットの仕組み 第2節 ハードウェアとソフトウェアの導入	・インターネットの基本的な仕組みを学習する。 ・インターネットサービスプロバイダがどのような役割を担っているのかについて学習する。 ・インターネットを活用するために必要なハードウェアやソフトウェアの種類について学習する。 ・コンピュータをインターネットに接続するための手続きや方法について学習する。	定期考査	定期考査	レポート課題
第3節 情報セキュリティの確保	・インターネットを活用してビジネスを行うためにはセキュリティの確保が重要であるということを学習する。 ・セキュリティの概要を学習する。 ・企業としてセキュリティを確保するためのセキュリティマネジメントについて学習する。	定期考査	定期考査			

1 学期	6	第3章 インターネットで情報を表現する手段 第1節 図形と静止画 第2節 動画の活用	・インターネットを通じた企業情報や商品情報などの発信のために活用する図形・静止画について、その概要を学習する。 ・画像の取得・作成・編集に関する知識や技術を身に付ける。 ・インターネットを通じた企業情報や商品情報などの発信のために活用する動画について、その概要を学習する。 ・動画の取得・作成・編集に関する知識や技術を身に付ける。	定期考査	定期考査	作品提出
	7	第4章 インターネットの活用 第1節 ウェブページの制作とデザイン	・ウェブページを制作するための一連の作業内容を学習する。 ・アクセス数を増加させるための工夫について学習する。	定期考査	定期考査	
2 学期	8	第2節 ウェブページの制作 ウェブページの制作①	・商品情報や企業情報を発信するためのウェブページを、HTML, CSS, JavaScriptを活用して制作するための知識や技術を身に付ける。	作品制作	作品制作	作品制作
	9	第2節 ウェブページの制作 【プレゼンテーション】	・商品情報や企業情報を発信するためのウェブページを、HTML, CSS, JavaScriptを活用して制作するための知識や技術を身に付ける。 ・作成したWEBサイトについて発表する。		作品提出 パフォーマンス課題	作品提出 パフォーマンス課題 振り返りシート
	10	ウェブページの修正	・作成したWEBサイトについて、相互評価等を受けて修正する。	作品提出	作品提出	作品提出
	11	第3節 電子商取引と電子決済 ウェブページの制作②	・電子商取引や電子決済について学習する。 ・電子商取引を行うためのウェブページを制作するための知識や技術を身に付ける。 ・電子商取引を行うためのWEBページを作成する。	定期考査	定期考査 作品制作	レポート課題 作品制作
	12	ウェブページの制作②	・電子商取引を行うためのWEBページを作成する。		作品提出	作品提出
3 学期	1	【プレゼンテーション】 第5章 ビジネスの創造 第1節 インターネットを活用したビジネス	・作成したWEBサイトについて発表する。 ・インターネットを活用したビジネスの特徴や具体例を学習する。	パフォーマンス課題 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査	パフォーマンス課題 振り返りシート
	2	第2節 ビジネスプランの考案	・インターネットを活用したビジネスのプランを検討するための観点や方法の一例を学習する。 ・インターネットを活用したビジネスのプランを作成することに挑戦する。	定期考査	定期考査	パフォーマンス課題
	3	【プレゼンテーション】	・自分の考えたビジネスプランを発表する。			パフォーマンス課題

担当者からのメッセージ（学習方法など）

実習中心の授業となります。インターネットビジネスにおける基礎基本やHP作成などについて学習します。

令和7年度

学年	2年生		単位数				
			情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	ネットワーク管理		開発	利用	I類	II類	III類
			3	-	-	-	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報資産を共有し保護する環境の提供に必要な資質・能力を育成することを目指す。						
使用教材	教科書：ネットワーク管理（実教出版） 副教材：ITパスポート試験 テキスト&問題集 七訂版（実教出版）						
評価	評価法	定期考査、レポート課題など					
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	情報資産を共有し保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。			
		②	思考・判断・表現	情報資産を活用し保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。							

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1章 企業活動と情報通信ネットワーク	ITパスポート試験テキスト&問題集を併用	中間 考査	中間 考査	レポー ト課題
		1. 情報資産の共有の重要性	・情報技術の進歩がめざましい時代において、情報資産を共有することの重要性を理解する。 ・企業活動における情報ツールを知り、それらを管理する重要性を理解する。			
	5	2. 情報通信ネットワークの形態と通信	・情報資産を共有するために、情報通信ネットワークにはどのような形態があるかを理解する。 ・情報通信ネットワークの活用方法を理解する。	中間 考査	中間 考査	レポー ト課題
		第2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理	ITパスポート試験テキスト&問題集を併用	中間 考査	中間 考査	
1. 情報通信ネットワークの設計方法	・情報通信ネットワークに対する要求を分析し、情報通信ネットワークを設計する基礎的な方法について理解する。 ・ネットワークの導入に際しての設定と、セキュリティポリシーによる運用管理の目的を理解する。	中間 考査	中間 考査			
2. 情報通信ネットワークのしくみと通信方法	・LANのアクセス制御方式、通信に関する規則を知ること、情報通信ネットワークのしくみと通信方法について理解する。	中間 考査	中間 考査			
3. ネットワーク機器	・ネットワークインタフェースの機能、有線および無線LANの接続装置、VLAN機能によるネットワークの切り分けを理解する。 ・インターネット接続におけるアドレス変換技術の種類と機能について理解する。	期末 考査	実習 課題	レポー ト課題		

1 学期	6	4. 情報通信ネットワークの構築方法 5. 情報通信ネットワークの運用と障害対策	・情報通信ネットワークの構築に必要なハードウェアを導入するための技法、サーバの選定と設定を行うための技法を習得する。 ・管理ツールやセキュリティポリシーによる運用管理、障害や不正アクセスによる復旧や対策について理解する。	期末 考查		
	7	6. システム監査 国家試験にむけての学習①	・システム監査の役割や手順を理解する。 ・内部統制の役割を理解する。 ・1学期に学習したテクノロジー分野とマネジメント分野の復習として問題に取り組む。	期末 考查 課題 考查		レポ ート 課題
2 学期	9	第3章 情報セキュリティ管理 1. 情報セキュリティ管理の目的と重要性	ITパスポート試験テキスト&問題集を併用 ・企業活動で欠かすことのできない情報システム、働き方が変化してきた時代に対応するために情報セキュリティが果たす役割について理解する。 ・情報資産に対する脅威とリスクを把握し、様々な攻撃手法を理解する。 ・情報セキュリティに関する法規や組織対応について理解する。	期末 考查		レポ ート 課題
	10	2. 人的対策 3. 技術的対策 4. 物理的対策	・情報セキュリティに対する意識を向上するための方策など、人的ミスや人的要因による情報セキュリティ上の問題を防ぐための対応策を理解し、具体的事例と関連付けて分析する。 ・アクセス権の設定や暗号化などの技法、コンピュータウイルスへの対策など、技術的にできる情報セキュリティ対策について理解する。 ・自然災害や事故などが発生した場合の情報セキュリティ上の対策を理解する。 ・外部からの不正侵入を防ぐための対策について理解する。	期末 考查 期末 考查 期末 考查		レポ ート 課題
	11	ストラテジ分野の学習	・ITパスポート試験テキスト&問題集を使用	期末 考查		
	12	国家試験にむけての学習②	・マネジメント分野とテクノロジー分野の復習として問題に取り組む。	課題 考查		
3 学期	1	国家試験にむけての学習③	・ITパスポート試験の問題に数多く取り組むことで学習の定着をはかる。 ・模擬体験ソフトを活用して、問題演習を繰り返す。	期末 考查		
	2	国家試験にむけての学習④	・模擬体験ソフトを活用して、問題演習を繰り返す。	期末 考查		
	3	国家試験にむけての学習⑤	・春休み中の受験を目指す。	期末 考查		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年生の学習が基礎となって、内容が高度になっていきます。予習・復習を行い知識が定着するようにしてください。